



学校だより



2026年 4月30日
横浜市立港南台第一小学校
5月号



校長 本多 響

本気の挨拶

朝、門の前に立っているときや授業を見るために教室に入るとき、私は元気に挨拶するようにしています。そして、子どもたちもとても丁寧に挨拶を返してくれます。そんな子どもたちの挨拶にいつも癒されて一か月を過ごすことができ、とてもうれしい気持ちです。

さて、この文章の題名を「本気の挨拶」としました。挨拶に「本気のもの」と「そうではないもの」があるのでしょうか。私は「挨拶」についての研修を受けたことがあります。ある企業の研修でしたが、誰でもできる挨拶を一日かけて身につけようという研修でした。そんなに時間が必要なのだろうかとは私は疑問に思っていました。そして、挨拶なんて簡単だと軽い気持ちで参加しました。その考えは大きな間違いであることにすぐに気がきます。その研修では、午前中に「おはようございます」「よろしくお願ひします」の練習をします。講師の先生から「合格！」と言われるまで研修は終わりません。私はいつも何気なく言っている挨拶の合格をもらうのに、約半日かかりました。ポイントは笑顔と頭の下げ方、そして声の大きさでした。私の笑顔は「こわばっていて、心から笑っていない。」と言うことで不合格。頭の下げ方は下げすぎて、不合格。そして声は大きく元気があるから合格だと言われましたが、全体的に本気の挨拶ではないと言われました。挨拶ってこんなに難しかったのかと逃げ出したくなったのを覚えています。

「挨拶」という漢字にはそれぞれの文字に意味があるそうです。

挨（あい）・・・自分の心を開く

拶（さつ）・・・相手の心に近づく

つまり、「挨拶」は「自分の心を開き、相手の心に近づくコミュニケーション」なのです。そのような意味があることを私はこの時初めて知りました。自分の心を開いている人は笑顔や頭の下げ方に表れるそうです。私はこの研修を受けてから、挨拶を今まで以上に大切にし、自分の心を開くようにしています。大人になっても、挨拶をマスターするのに研修を受けるぐらいですから、生きていく上で挨拶はとても大切であることが分かります。でも、子どもの頃から「本気の挨拶」をしている人は研修する必要がないかもしれませんね。

朝の門に立っているとき、そして教室に入ったときには、「おはようございます！」と丁寧に頭を下げたり、笑顔を見せてくれたりと、本気の挨拶をしてくれる人がいます。その日一日、私は幸せな気持ちになります。まさに自分の心を開いて、相手の心に近づく本気の挨拶です。研修を受けなくても、そんな挨拶ができる子は素敵だなと思いました。校長になっても、まだまだ子どもたちから学ぶことが多いなと思いました。

5月号から学校だよりに各学年の学習予定を掲載します。子どもたちの様子は、学校Web ページを整備中です。